

# 小学校内における放課後等児童施策推進プロジェクトチーム 最終報告【概要版】①（案）

**趣旨・目的：**大阪市立小学校内において放課後等に実施される児童に関する施策について検証するとともに、各施策間における相互の連携を図ることにより、放課後等における各施策を一層推進し、それらを通じて児童の健全な育成に資する

**委員構成：**（委員長）副市長 （委員）こども青少年局長、教育長、区長、小学校長

**検討事項：**局の縦割りを排し、各種施策間における相互の連携と一層の推進、新たな課題や保護者ニーズの多様化に対応、人材確保・財源確保

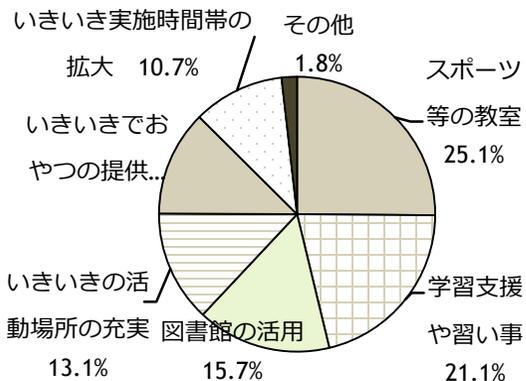
平成29年2月24日 第1回PT会議  
以降PT会議・ワーキング会議において  
課題・対応策を議論  
PT会議4回、ワーキング会議6回  
中間報告（6月）

放課後事業については、学校運営とも大きく関わると  
いう考え方を改めて教育委員会・学校と認識を共有し  
ていくこと、こども青少年局の調整機能の強化を図る  
ことを確認／「いきいき」について集中的に議論（持  
続可能な制度となるよう再構築）

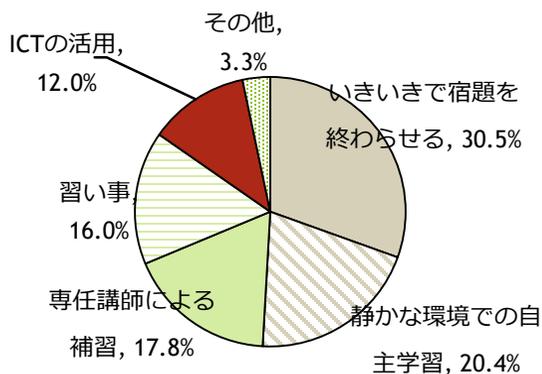
平成30年2月26日  
プロジェクトチーム最終報告と  
して課題と対応策を取りまとめ

## 保護者アンケートの実施(抜粋)・ 見えてきたニーズ・課題

### 放課後で内容充実してほしいメニュー



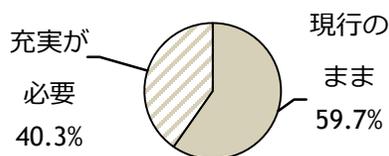
### 学習支援・習い事の内容



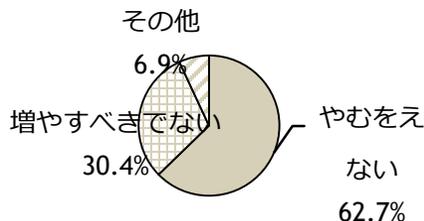
### 児童いきいき放課後事業事業者アンケート (抜粋)

いきいき運営上困難と感ずること	指導員の確保、保護者対応、活動室の狭隘、運動場の安全管理 など
人材確保が困難な理由	勤務時間が短い、賃金単価が低い、苦情対応の多さ など
慢性的な人材不足	目標人数に対して約80%程度のスタッフ指導員しか確保できていない、一部の指導員に過度に負担となっている など
チーフ指導員が困難と感ずること	指導員のローテーション編成、支援児童対応、保護者対応、活動場所に関すること など

### 放課後事業の充実の必要性



### いきいきの自己負担の考え方



いきいきの自己負担の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>負担を増やすのであれば内容充実させるべき。</li> <li>少しの負担は仕方ないと思うが金額によっては利用を控えると思う。</li> <li>負担の必要性等をしっかり説明してほしい。</li> <li>内容充実のため負担が増えるなら今のままでよい</li> </ul>
いきいき活動場所希望内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>広い部屋。学習の出来る静かな部屋。</li> <li>校庭で遊べる機会がふえるとよいと思う。</li> <li>児童数に合った広い部屋が必要。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>1時間の時間延長と長期休業中の早朝受入れの実施を。</li> <li>宿題の時間を確保し、すんだ子供から（おやつ）を食べる。</li> <li>仕事をする親にとっては、いきいきはとても助かります。</li> </ul>

# 小学校内における放課後等児童施策推進プロジェクトチーム 最終報告【概要版】② 課題解決に向けた対応策（案）

## （１）スポーツ教室など利用者負担による新たな活動プログラム

- ①実施の推奨
  - ・公募審査の際、提案意志等をこれまで以上に重視
  - ・事業者が土曜日等の活動時間や活動場所に余裕のある日に積極的に提案することを推奨
- ②実施への支援
  - ・これまでのニーズ調査やアンケート調査の結果を提示
  - ・年度途中での提案も随時可能
  - ・新しい活動プログラムの実施に向けてマニュアルを作成
    - ※企画から実施までの手続き、確認事項など明記

## （２）活動場所の確保

- ①学校図書館の活用 【読書環境UP】
  - ・全校の「いきいき」で学校図書館を活用し静かな環境を整備
  - ・「いきいき」での学校図書館の利用マニュアルを作成
    - ※利用にかかる基本事項を明記
- ②特別教室等の活用状況をモニタリング
  - ・利用促進に向けこども青少年局「いきいき」担当課に各学校との調整機能を担う教員OBを配置
  - ・PTのもと年間3回程度、利用調整会議を開催
- ③放課後も学校運営の一環であることなど、教育長から各校長へのメッセージ（通知）の発信を検討

## （３）ICT機器の放課後の活用

- コンピュータ教室を「いきいき」で活用
- ・モデル10校で試行
  - ・コンピュータ教室の利用にかかる標準マニュアルを作成
    - ※使用機器の範囲や利用内容等、教室利用や実施にかかる基本事項を明記

## （７）財源の確保

- ①国庫補助金の拡充を要望
- ②受益と負担のあり方の検討  
「いきいき」の自己負担について委託予定期間内の導入を目指す（2018～20年度）
  - ※低所得者層への減免等に配慮し徴収コストを勘案した仕組みを検討

## （４）学習支援の充実・連携

- ①「いきいき」での宿題の徹底 【宿題機能UP】
  - ・自主学習に適した学習環境を整備し、低学年から宿題を通じた自主学習の習慣づくり
    - ※自主学習に適した部屋の確保に努め、自主的な取り組みを促すためのマニュアルを作成し、「いきいき」内でできる宿題は終えるよう指導
  - ・児童に宿題の範囲・内容を連絡帳で確認させながら自主学習を指導
- ②区による学習支援や学びサポーター等の学習支援を充実
- ③学校や区による学習支援事業と「いきいき」で情報共有
- ④学校と「いきいき」間の連絡調整の場として、毎月運営委員会や打合せ会等を開催

## （５）その他の内容充実

- ①活動時間延長 【時間延長箇所数UP】
  - ・人数要件として基本的に5人以上 ※現行実施要件10人以上が多数
- ②延長時間中おやつを提供を検討
- ③活動室における読書環境の充実(いきいき文庫)【読書環境UP】
  - ・地域図書館より「いきいき」活動室に新刊等配架

## （６）人材確保策

- 「いきいき」指導員の処遇改善により人材を確保し様々なニーズに対応
- ※チーフ指導員 120,000円→130,000円（月額）
  - スタッフ指導員 920円→1,000円（時給）
- 今後事業期間ごとに賃金構造基本統計調査等を勘案し、適時適切に改定

## 今後の取組み（30年度予定）

- プロジェクトチーム会議  
新たな「いきいき」の取組み状況の確認と確実な実施
- プロジェクトチーム利用調整会議（年3回程度）  
特別教室・学校図書館利用状況、活動室混雑状況モニタリング等